



知教労ニュース

発行 知多地方教職員労働組合(知教労)

〒475-0929 半田市仲田町1-18 Tel&Fax 0569-24-5216

HP: http://www.chikyoro.ikaduchi.com/ e-mail: chikyoro@oboe.ocn.ne.jp

がんばれ! 本日帰郎くん

ワーク・ライフ・バランス推進キャンペーン

11月21日(水) 愛知県内一斉ノー残業デー



11月21日(水)は愛知県内一斉ノー残業デーです。
「愛知県内一斉ノー残業デー運動」の賛同企業・事業所を募集しています!

9月~11月は有給休暇取得プラス1期間です。
「有給休暇取得プラス1運動」の賛同企業・事業所を募集しています!

ホントに何とかしよう! 教員の働き方

労働運動・教職員組合が示してきた方針を県当局が推進

県がつくったポスターですか?!
愛知県産業労働部労働福祉課は、ワーク・ライフ・バランス推進キャンペーンを知事の肝入りで実施しています。この中で民間労働者、公務員に関わらず、「子育てや介護を巡る問題、心の健康の確保など、働き方を見直さなければ解決しない様々な問題」に対処するため、「愛知県内一斉ノー残業デー運動」と「有給休暇取得プラス1運動」の二つが提起されています。

左がその広報ポスターですが、「本日帰郎」と「休暇取代」さんが一つの運動の推進役となっています。県がつくったポスターとしては、遊び心のあるものとなっており、単なる通知だけで終わらせない「本気」が感じられま

す。11月21日(水)の一斉ノー残業デーには、10月4日時点で818事業所、58市町村・団体が賛同しています。知多地方では、東海市・知多市・常滑市・半田市・阿久比町・武豊町・美浜町が賛同自治体となっており、「働き方や仕事の進め方の見直しを促し、心身のリフレッシュや家族との団欒」を図る機会として11月21日の取り組みが注目されます。

教職員学校の問題は…?!

この運動により小中学校では、何が変わるのでしょうか。

教職員の異常な長時間労働はかねてから指摘されています。情報公開で得られた出勤時刻の記録でも、月100時間を超える時間外労働が存在し、一部の中学校では月180時間を遙かに超えた実態がごく身近に存在しています。こうした働き方は「異常」なのであって、たとえそれが「教

時間外労働が前提の「仕事」

産休育休や療休などで、教諭が職場を離れた時、代わりの先生が見つからないという事態が起きている。とくに中学校では免許教科の関係で、見つからない教科は見つからない。「常勤講師はムリだが非常勤ならば…」という方になんとかお願いして授業をもってもらおうというケースが増えている。

なぜ常勤講師はムリなのか。非常勤なら教科指導・授業だけだが、常勤になったとたん朝と休日の部活指導、生徒指導、行事の運営、校務分掌……、といった仕事がついてくるからだという。確かに非常勤には時間を超えて仕事を依頼しないよう配慮するが、常勤には時間の配慮はないに等しい。

北から南から ~支部だより~

今年度、部活動がめっぽう強い学校に異動した。半年が過ぎ、その強さの秘密は、豊富な練習量が支えているとわかった。多くの部が土日返上、中には一日練習ということや、しかも夏休みの土日活動という部もあり、長年中学校教員をやってきた小生もこれには驚いた。管理職からの指導も今のところ特にならなくて、部活指導をやりたいたい先生にとっては、大いにやりやすい学校であると思った。

もちろん先生たちが自主的に練習計画を立てたものであるし、生徒指導上、部活に力を入れたい事情も分かる。

しかし生徒たちも先生たちも、土日の疲労回復や家族とのふれ合い、また翌日の月曜日の精神状態は一体どうなんだろうと時々心配になる。一生懸命がんばっている若い先生たちに対して、有閑居士みたいな小生がとやかく言うことではないかも知れない。

しかし本音はどうなんだろう、精神的な疲れは残していないのだろうか。うつ病が多いこの時代、もうこれ以上同じ職場仲間を失いたくない。前任校では、土日連続部活動は試合でない限り自粛しようと内規があった。県によってはすでに、第一第三日曜は自粛することと自治体レベルで決めているところもある。愛知県もなるべく早く帰宅しよう、残業をなくそうとようやく大村知事が言い出したようで、これは推奨されるべきよい方向であると思う。(K)

どうすれば実現するのか 教員のワーク・ライフ・バランス

市町教委、管理職は、この問題についてどれほど真剣に取り組んでいるのでしょうか。現在知教労がすすめている市町教委との話し合いのなかでも、「教職員の長時間労働をなんとかしなければならぬ」という基本的な方向性は一致するのですが、具体的にどうするということ「なかなか進まない」「難しい」で止まってしまうのが実情です。

学校という事業所で、労働安全衛生に責任を負うのは市町教委です。校長・教頭の管理職に、当面、次のよう

な具体的な指示をすることができません。

月初めに前月分、全員の出勤時刻の記録を市町教委に提出させる。基準を超えた時間外労働の教職員の具体的な業務内容を確認させる。

土日連続の部活動を禁止し、最低でも月4日以上休日をとらせる。 市町の指定休の二つの運動について、教職員、保護者に書面で通知する。

11月21日に全職員が定時退校することを保護者に周知する。管理職に全職員の退校を現認させる。 かつての指定休のように、教職員の話し合い、持ち回りにより無理なく年休を取得させる。

教職員のワーク・ライフ・バランスのためには、自分の私的な人生と生活を充実させ、健康な心身の状態を保つことが今、必要です。そのことは必ず子どもたちの指導にとってプラスに働くでしょう。



私の学級には、自閉症の児童が在籍している。自閉症という特徴から、多少こだわりがあるが、子どもたちは個性を出し合い楽しく過ごしている▼一日のはじめは、知的障害、情緒障害の二クラス合同で校庭の草取り。初めは乗り気でなかった子どもたちも、回数を重ねるにつれ、今では何の抵抗もなく、日ごとに草取りが上手になってきた。そして、毎日の草取りに取り組むことで集中力が出てきた。また、手先を動かすことで体の緊張がほぐれ、会話が弾んでみんなが笑顔になる。教師にとっては、草が取り除かれ、きれいになった所を見て子どもたちの成長を感じる瞬間でもある▼次に、教室に戻って勤務の代償としてティータイム。おしゃべりをしながら楽しい一時を過ごす。▼ある研修会で、発達障害の児童には、「活動のパターン化をすれば目標や見通しができ、あまり抵抗なく活動ができる」ということを学んだ。そこで、朝の会は校歌で始まり、詩の朗読、ラジオ体操、ジャンケンゲーム、算数の百マス計算をしている。今では、子どもが音楽をかけたたり準備したりできるようにうれしい限りである。これからは、マラソンや縄跳びも取り入れていこうと思っている。

(H)

データで見る『教員の実態』第31回 『730、410、318』

今回は、いつもとは違った視点からのデータです。私たちが置かれている労働条件に直結したものではありませんが、最近、新規採用教員が増えているので、昨年度採用された教員について調べてみました。

愛知県の教員採用者数と前歴

	採用者数	新規 学卒者	教職 経験者	民間企業 等経験者	その他の 既卒者
小学校	730	388	238	43	61
中学校	410	186	175	20	29
高等学校	318	104	169	35	10

愛知県の採用種別教員採用倍率

	受験者数	採用者数	倍率
小学校	2697	730	3.69
中学校	2532	410	6.18
高等学校	2407	318	7.57
養護教諭	522	70	7.46
栄養教諭	132	10	13.20

全国の学校種別採用倍率

倍率	最高	最低	全国平均
小学校	岩手県 32.38	富山県 2.58	4.49
中学校	鳥取県 23.53	大阪市 3.52	7.82
高等学校	京都市 22.29	川崎市 3.89	7.67

愛知県は、全国の中で考えると割合採用されやすい県であるといえそうです。今年特に大きな独自加配があったわけではありませんので、講師の数を減らしていなければ、それだけ退職される方が多かったとも予想できます。今年度、今までに知多管内で2名の新任教員が退職しています。

知ってるつもい・Q&A 有給休暇の取得率は？

Q テレビで「企業別の有給休暇取得率が発表された」というニュースを見ました。このような調査があるのでしょうか。また、どのような数値なのでしょう。

A 有給休暇取得率は、東洋経済新報社が発行している『CSR企業総覧』という雑誌に毎年、夏頃発表されます。CSRとは、企業の社会的責任という意味のことばで、雇用している社員がどれだけ年次有給休暇をとることができているかを公表することも企業の責任であるという考えに基づいて、この出版社に有給休暇取得率を公表している企業、769社について掲載しています。

数値は、前年度からの繰り越し日数は数えず、その年度に付与された日数をどれだけ消化しているかを表しています。また、たまたまその年度だけ数値が上下することを防ぐため、過去3年間の平均値で表されます。それによると……

① ダイハツ工業	100.4%
② ホンダ	100.4%
③ 相鉄ホールディング	98.9%
④ ティステック	98.1%
⑤ トヨタ車体	98.0%



上位に自動車関連企業が目立ちますが、これは、企業努力と共に、工場のラインを止めて一斉に休暇を取得することがしやすいことも要因にあります。100.4%というのは、前年度の未消化分を消化した数値です。

全体の平均は、50.6%で、全体的に小売業は低くなる傾向にあります。わたしたち教員は、いったい何%くらいになるのでしょうか。

文化祭でステージ発表「イルミネーション」～特別支援学級の取り組み～

先日、本中学校の文化祭が行われました。プログラムの中で、私が担任をしている特別支援学級の生徒たちが、ステージ上でイルミネーション作品発表を行いました。文化祭での発表は、今回で2度目の挑戦でした。

◆イルミネーション

本学級の生徒たちがイルミネーションを制作するのは今年で通算6年目になります。本校のある市の都市整備課が中心となって、毎年、年末年始に駅のロータリー周辺をボランティアのみなさんとともにイルミネーションで飾っています。その一環で、本学級も作品を制作し、飾らせていただきました。昨年度は震災の影響で中止になりましたが、今年は規模を縮小しつつも、行うことが決定したので、生徒たちも「うれしい！」と大喜びで取り組みました。

◆文化祭ステージ発表もドラマの連続！

文化祭での発表も、毎回ドラマです。スムーズにスマートに発表が成功するのではなく、何かと事件がおこり、それを生徒たちは乗り越えて発表をやり遂げました。

とくに1度目の発表では、本番で作品を運ぶ途中で電源コードを足で踏んでしまって断線、苦労して完成させた作品の半分が点灯しませんでした。悔しがった生徒は教室で涙しました。「お父さんが来てくれたから見てほしかった。」その言葉に私も、「次の全校集会で、もう一度発表をさせてもらおう！」と提案し、先生方をお願いをしました。集会で再び堂々と発表する生徒。もちろん、点灯は大成功で、温かい拍手をもらうことができました。母親も見学に来てくださり、喜んでいただきました。トラブルを克服して最後までやり遂げる生徒の姿に、感動をもらいました。

◆制作の中で見られる子どもたちの成長

さて、このイルミネーションの制作、正直なところ大人でも大変だと思う作業です。電球の一つひとつを針金で金網に取り付けていきます。指も痛くなりますが、なんと言ってもその数です！一つの作品に800球、2作品制作するので、合計1600球を一つずつ取り付けていくのです。

ゴールが遠く感じる作業、毎年1年生は、集中することができず、早々とあきらめる姿が見られます。そんな中、頑張るのが先輩たち。例えば前年は10個しか付けられず、つつい遊んでいた生徒。それが2年生になったら、なんと一人で400球も取り付けました。では、なぜ変身したのでしょうか？そこには、手本となる最上級生の存在があったのです。遊んでしまう1年生の分を3年生が放課後も使って作業をしてくれたのです。その姿を覚えていて、「今年は俺がやってやる。」と放課後も一人残って作業をしていました。素敵なエピソードだと思います。

特別支援学級は、1年生から3年生まで同じ教室で学びます。日ごろからともに生活している分、後輩たちは先輩をお手本として学ぶことができ、先輩たちもその自覚を深めることができます。この点は、特別支援学級の大きな長所だと思っています。これからも、活動を通して生徒たちの心を耕していきたいと思っています。(H)

